

丹波篠山の発掘調査のこれからを考える 「篠山層群恐竜化石等発掘調査検証委員会」を開催

2006年8月に丹波市山南町で恐竜化石が発見されて以来、丹波篠山に分布する篠山層群の地層から、は虫類や両生類、ほ乳類といった多様な化石が2万点以上見つかっています。これだけ大量の化石なので、化石のクリーニング作業は現在約25%進んだ状態で、今後も新たな発見が期待されます。

これまでの成果をまとめ、今後どのように篠山層群に関する発掘・研究を進めていくかを検討する「篠山層群恐竜化石等発掘調査検証委員会」が、平成24年6月23日と8月27日の2回開催されました。亀井節夫委員長(京都大学名誉教授)をはじめとする委員5名が、これまでの学術研究・普及教育・地域貢献について評価と提言をすべく意見交換をしました。



発掘地(丹波市山南町) 観察の様子



第1回検証委員会の様子



篠山層群の分布と主な化石産地

委員会の意見として①6次に渡る調査発掘を地元ボランティアの方々と共に進めてきた意義や、②恐竜化石を中心に多様な生物について発掘・研究が進んでいることへの期待、③丹波並木道中央公園に化石密集層が存在する可能性等が指摘されました。また、多様な化石から当時の丹波篠山の環境を解明し、現在の環境の成り立ちや未来の環境のあるべき姿を考えることも大切との意見もありました。亀井委員長からは、「皆さんで力を合わせて、単に過去を掘るのではなく、発掘を通して未来を切り拓くつもりで頑張っていたらいい」との激励の言葉も聞かれました。

検証委員会のまとめを基に、県民の皆さんや様々な機関と協働し、学術研究、普及教育、地域貢献を進めていきますので、ご期待ください。

赤澤宏樹 (企画調整室)



発進しました！ ゆめはく

10月14日にお披露目が終わった移動博物館車ゆめはく。早速10月20、21日にモルフォ蝶の標本と、その輝く翅を拡大してお見せするための実体顕微鏡を積んで、三田市にある有馬富士公園のフェスティバルに初出動しました。当日はとても良いお天気で、大勢の人が賑わっていました。設営している間も、モルフォに惹かれて足を止める人達が続出。昆虫の拡大写真のタペストリーも良い広告になっていました。ゆめはくをオープンすると、次々とお客さまが乗ってこられました(写真1)。子ども達のお目当ては、なぜか実体顕微鏡なのでした。お行儀よく列をつかって順番を待ち、両目をレンズにあてて一生懸命覗いていました。大人達はそんな子どもと一緒に顕微鏡の拡大画像に驚いたり、標本をしげしげと眺めて「きれいなえ。」とため息をついたり。お客さまは途切れることなく、1日で約3000人の方がゆめはくを楽しんで

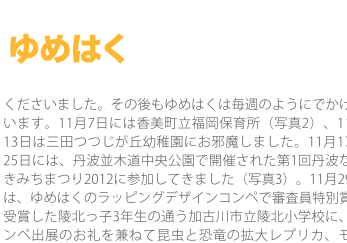


写真1：有馬富士フェスティバルに参加しました



写真2：香美町立福岡保育所の皆さんと一緒にご鑑賞

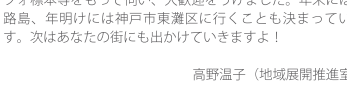


写真3：丹波のみきまつりに出動

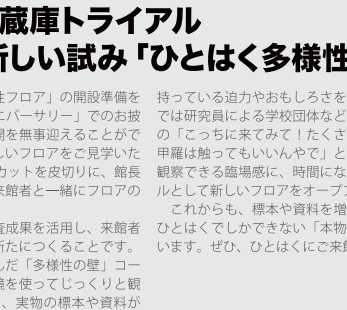


写真4：丹波のみきまつりに出動

オープンしました！魅せる収蔵庫トライアル -収蔵庫とみんなをつなぐ新しい試み「ひとくはく多様性フロア」-

開館20周年を記念して、本館2階に新しく「ひとくはく多様性フロア」の開設準備を進めてきましたが、10月13日の20周年記念式典「ひとくはくアニバーサリー」でのお披露目と、14日の「ひとくはく二十歳の誕生日！」での一般公開を無事迎えることができました。記念式典では、館長が秋篠宮殿下をご案内して新しいフロアをご見学いただき、翌日一般公開では「Kidsひとくはく大使」によるテープカットを皮切りに、館長のギャラリートークや研究員による演示を行い、たくさんのお客様と一緒にフロアのオープンをお祝いしました。

このフロアのねらいは、ひとくはくが20年かけて収集した調査成果を活用し、来館者が本物の標本や資料に触れて、自然界の多様性を学べる場を新たにすることです。鳥の剥製やヘビの液浸標本、植物化石など色々な標本ならんだ「多様性の壁」コーナーや、実際に昆虫標本や植物標本を触り出し、顕微鏡を使ってじっくりと観察することができる「収蔵庫体験ラボ」コーナーなどがあり、実物の標本や資料が



高野亜子 (地域展開推進室)



古写真資料を間近で見ながら展示解説 化石標本を手にとって観察 Kidsひとくはく大使によるテープカット 昆虫標本を顕微鏡で観察 小学校のフロアでの学習

ひとくはく新聞2012|12|26号(平成24年12月26日号)

発行：兵庫県立人と自然の博物館 〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘6丁目 電話：079-559-2001(代表)

発行日：2012年12月26日(平成24年12月26日)

橋本佳明 (生涯学習推進室)

フェスティバルを開催しました

秋晴れの好天に恵まれた11月4日(日)に「ひとくはくフェスティバル2012」を開催しました。今年は「ひとくはく二十歳(はたち)」をテーマに、10月14日に一般公開した「ひとくはく多様性フロア」や移動博物館車「ゆめはく」での演示、「どんぐりどどこ」ほかキッズひとくはく推進室によるイベントなど、ひとくはく主催のイベントをより多く企画しました。ひとくはくに関わりある博物館や公園によるイベントも多数あり、館内外は子ども大人までも多世代の来館者であふれました。深田公園のまんぶく屋台は「まんぶくストリート」と名を変えてエントランスホール近くの道路に舞台を移し、深田公園の芝生ステージではチャリディング、吹奏楽や三田太鼓の演奏などがありました。これらの各会場に2万7千人を超えるみなさまに来場いただき、ひとくはくの魅力を少しでも伝えることができたこと、主催者一同みな喜んでます。

加藤茂弘(生涯学習推進室)



まんぶくストリートのにぎわい

4階ひとくはくサロン

芝生ステージ(吹奏楽演奏)



ゆめはくに乗ってみよう

2階ネイチャー・テクノロジー

芝生ステージ(三田太鼓)

ひとくはく「しぜんかわらばん2012」・「キッズかわらばん」を実施しました!

「しぜんかわらばん2012」は、一昨年の「ひとくはくいきものかわらばん」、昨年の「第2回ひとくはくいきものかわらばん」に引き続き、実施しました。今年は募集期間に352点が集まり、全作品を10月6日～2013年1月6日まで館内で展示しています。今年の応募数は昨年の約5割と少なかったのですが、作品の質は向上しているように思われました。そして今年は県外からの応募が増え、次第に全国に広がっていく傾向が感じられました。受賞者は右記一覧にある延べ38人で、11月4日(日)のひとくはくフェスティバルで表彰されました。今年はパナソニック株式会社の協力により「パナソニック・バイオミミクリ賞」が新設されました。また、2013年2月(月・祝)から始まる「共生のひろば展」にも受賞作の縮小版が再展示される予定です。

大谷 剛 (生涯学習推進室)



＜受賞者一覧(受付番号順)＞

しぜんかわらばん

館長賞 3点

最優秀賞 (明石市立花園小3)、室谷泰智(神戸市立なぎさ小6)、水谷樹樹(滝川第二中3)

館長賞選考の考え方 (若槻邦明館長)

選考にあたっては、具体的な事象を対象としたもの、一過性ではなくて経時的な観察、観察だけでなく何らかの独自の考察を含んだもの、等を評価基準としました。中、高校生は文献抄録など、要領よくまとめたものが多く、上の審査基準からは高い評価にならないものがほとんどでした。(これに引き続き館長賞3点の優等コメントはホームページに載せてありますので、参照下さい。)

三田記者クラブ賞 5点

押川詩穂(伊丹市立桜台小3)、吉田和弘(柳学園中2)、常石明日香(同3)、青木紗紗(県立長田高2)、宮村優汰(豊岡市立小野小5)

パナソニック・バイオミミクリ賞 10点

宮村優汰(豊岡市立小野小5)、木原可貴(三田市立富士小1)、城谷祐法(灘中1)、和田真美(神戸市立小部中1)、滝川真依(滝川第二中3)、本家有花(同)、森野涼子(同)、杉野智哉(柏市立浦井根小6)、下出歩美(宝塚市立長尾小2)、海野理紗(福山頭の星小3)

研究員賞 20点

海野理紗(福山頭の星小3)、今井勝彦(加古市市立東神吉南小6)、田中義将(三田市立野山小5)、波多野悠真(三田市立富士小3)、花井禮優大(大阪教育大付池田中1)、手島光(灘高1)、押川仁(伊丹市立桜台小5)、伊原星空也(神戸市立立通場小3)、川東祐哉(県立伊谷北高1)、高田夏菜(滝川第二中3)、折井裕将(同)、大江真美(明石市立花園小3)、瀧原佑実菜(同)、仁井祐輔(同)、山岡洋斗(柳学園中1)、小寺千仁(尼崎市立立通庄小4)、志田祐輝(柏市立浦井根小6)、青木華恋(同)、藤辺ゆうか(同)、入野葵(宝塚市立長尾小2)

賞 キッズかわらばん 館長賞 1点

北本歩(5歳)・樹(3歳)・北本幸子

キッズひとくはく賞 4点

山本奏恵(6歳)・山本美一郎、山口祥史(6歳)・下村恵里・津谷有沙、藤田夏穂(6歳)・藤田純子、谷野直(4歳)・下谷野純子

紹介 「みんなで楽しむ新しい博物館のこころみ」

開館200日目、「新展覧」から100日目を迎えるひとくはくから、新しい博物館のあり方を模索してこれまでに進められてきたこころみ、その成果、残された課題などについて解説した上記書籍が上梓されました。館長の手による序章「ひとくはく20年とこれからは」をはじめ、研究員や事務系職員の手による「シンクタンク機能を有する博物館」、「生涯学習支援-恐竜化石をとおして-」、「連携で広がる博物館の可能性」、「ひとくはくにおける研究」、「博物館の広報-ひとくはくはの広報活動-」、「ひとくはくのマネジメント-組織の完成と開館10年後の新展開-」といった章が続き、最後は館長による「おわりに-ひとくはくを取りまく今後の課題-」で結ばれています。章のタイトルには取っ付きにくく見えるものもあるかも知れませんが、実際の文

体・表現はわかりやすく頼みめるよう工夫されており、読み物として気軽に手にできるようにになっています。博物館に関わる仕事をしている方はもちろん、博物館に興味、関心のある人に広く見て頂きたい一冊です。

太田英利(自然・環境評価研究部)

ひとくはく(兵庫県立人と自然の博物館)がはちになりました。「博物館は展示」というこれまでの殻をやぶって、積極的に地域社会と交流し、人々の学びへの意欲を誘い、新しい博物館のあり方を模索する活動を紹介します。期待される博物館の今後を描き出しています。

博物館にかかわる人、利用しようとする人に新しい夢を与える本!

研成社

(研成社 東京 188頁 1800円+税)

編集:広報・出版支援担当/橋本佳明・加藤茂弘・藤井俊夫
デザイン:大本紗理理・美濃杏奈・松田沙耶香
印刷:ユニクス印刷株式会社

生涯学習課/西岡敬三・八尾滋樹

小林美樹(編集長)



(研成社 東京 188頁 1800円+税)

※本紙の無断転用・転載はご遠慮ください。